

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	児童発達支援センターめだかの学校			
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 7日		～	令和7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数)	20
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 3日		～	令和7年 2月 7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○訪問先施設評価実施期間	令和7年 1月 7日		～	令和7年 1月 31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答数)	14
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先との連携	訪問前は園から活動内容やねらいを聞き取り支援を開始しています。また、訪問後すぐに子どもの課題や必要な支援について共有しています。	訪問先との情報共有の方法について、電話やメール等、よりよい方法を検討します。
2	多職種連携	保育士、心理士が訪問支援を行っています。特に10年以上の経験豊富な職員が複数担当しています。また、必要に応じて作業療法士や言語聴覚士等の専門的な指導を受けながら支援を行っています。	作業療法士等による専門指導の充実に努めます。
3	家族支援	マカトンサインの指導には毎回保護者が同席し家庭でも取り入れることができるようにしています。2か月に1回程度保護者が同席し、対面で話しています。動画撮影した映像を見てもらいながら子どもの状態を共有できるようにしています。	保護者に子どもの集団での姿を理解してもらえるよう努めます。

	事業所の弱み（※）と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	安全管理	訪問支援時の非常時の対応について、訪問先と安全マニュアル等の共有はできていません。	訪問支援開始前に訪問先と安全マニュアルを共有します。
2	情報公開	定期的な通信等は発行していません。	児童発達支援と同様の通信を保育所等訪問支援利用者にも配布します。
3	専門性の向上	訪問支援の事業を拡大したが、訪問支援の専門性については、今後実践を積み上げていく中で高めていく必要がある。	常に支援方法を事業所内で共有したり、研修の機会を設けて専門性の向上に努めます。